

学校名	山形市立第十小学校		校長	学校長 樋口潤一
	〒990-0835 山形市やよい二丁目6番1号 TEL643-4102 FAX645-8590		研究主任	伊藤貴子
研究主題	<p align="center"><b>「夢や願いに向かって 自分たちの学びを力強く創造する子ども」</b> (8年次)</p>			
研究主題設定の理由	<p>本校の学校教育目標は、「しなやかな心とたくましい実践力をもち、徳、知、体の調和のとれた児童の育成」である。学校のめざす子ども像は、「ゆたかに・かしこく・たくましく」として、十小の子どもたちが、仲間と心を通わせながら、自分たちで考え、学びを、くらしを、学校を創っていくことをめざしている。また、学校教育を通じてよりよい社会を創るという昨今の教育的背景を踏まえ、子ども自らが学びを創っていくことができるように取り組んでいかなければならない。</p> <p>そこで、研究主題を上記の「夢や願いに向かって 自分たちの学びを力強く創造する子ども」とし、今まで大事にしてきたように、授業の中で見られる子どもの姿だけを追究するとともに、子どもたちの未来に役立つ実践力や活用力を高めるような教育活動を展開していきたいと考えている。</p> <p>この研究主題に込めた思い（意味）は、次のとおりである。</p> <p><b>「夢や願い」……強い課題意識、めあて意識、未来への夢、強い思い・願い等</b>  <b>「自分たちの」……みんなで力を合わせて、かかわりを深めながら等</b>  <b>「学び」……教科の学び（学習の基礎基本も含む）、総合的な学習の時間の学び、行事における学び等、学校教育活動全体における学び</b>  <b>「力強く創造する」…学びや活動を切り拓く、生き方やあり方を見つめ直す、活用力や実践力を身に付ける、考え方や学び方を深める・高める等</b></p> <p>この研究主題を実現するために、以下の『3つの柱』をもとに全ての教育活動を実践していく。</p> <div style="border: 1px solid green; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>◎主体的な学び……課題を自分ごととして捉え、主体的に学ぶ  ◎必要感のある交流……必要感をもってかかわり、学びを高める  ◎高まりの自覚と新たな挑戦…自己の高まりを自覚し、新たな問いをもつ</p> </div> <p>これらを重要な3要素と捉えて実践を積み重ねていくことで、教職員全員で教育の方向性を確かめたり、授業づくりや学級づくり、支援のあり方や教師の意識について共通理解を図ったりすることができる。さらに、十小で育てたい資質・能力を明らかにしながら、未来を豊かに生きる力を育んでいきたい。</p> <p>子どもが学びを自分ごととして受け止め、強い願いや思いを抱いたとき、自ら対象とかかわったり、必要感に駆られて仲間と交流したりするだろう。このような主体的で協働的な価値ある学びは、自分のあり方・学び方・考え方の高まりの気づきにつながっていく。そうした教育活動の積み重ねが、子どもの自尊感情や実践力・活用力に結びついていくものと考えている。</p> <p>第6次山形県教育振興計画が、平成27年度より実施されている。また、学習指導要領では、主体的・対話的で深い学びの実現へ向けた授業改善を通して、資質・能力を育成し、児童に生きる力を育むとしている。本校の研究は、人としての生き方やあり方を追究する「ひとづくり」であり、そうした「子どもの未来を見据えた教育的ニーズ」にも結びつくものである。</p>			
研究の目標	<p>子どもの実態から、「つけたい資質・能力」、「めざす姿」を明確にし、その具現化に向けて、『研究の3つの柱』をもとに教育活動を創造したり、教師の支援のあり方を追究したりして、「子どもの育ちを実現できる学校」をめざす。</p>			

**1 単元末・単元後・未来の子どもの姿をイメージし、**

**育てたい資質・能力を明らかにした日々の授業づくり・授業実践・授業改善**

- ・「何を学び」「何ができるようになるのか」といった**めざす子どもの姿を明らかにしながら実践**にあたる。子どもたち自身が「実践・活用」できる力を身に付けるために、子どもの思いを出発点とした課題づくり、実践・活用に結びつく学習過程の工夫、学習後の価値付け・支援を繰り返しながら取り組んでいく。
- ・子どもたちが「どのような意識で学び、かかわっているのか」を考え、よりよい支援を探り、子ども主体の学びを目指していく。

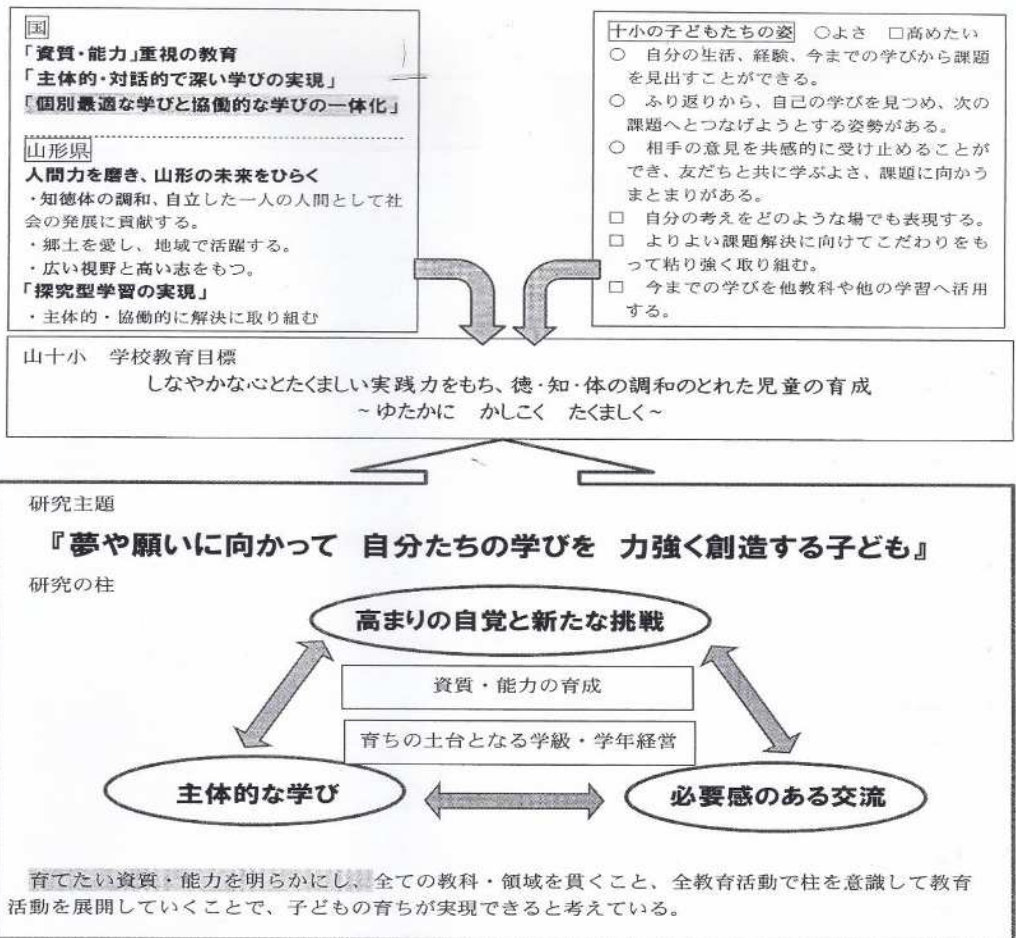
**2 子どもを見る視点の共有化、**

**授業づくり＝学級づくりを意識し、学年・学校全体で子どもを育てる。**

- ・ありのままの子どもの姿を受け止め、その子どもなりのがんばり、よさを見る。
- ・**子どもの姿を記録し、語り合い、子どもの変容をとらえてよりよい支援を考える。**（授業研究会後の事後研究会、語りタイム、教科担任制での連携）
- ・子どもたちが、かかわることのよさを実感でき、安心して過ごせる学級経営、**学年で子どもを育てる学年経営**に取り組む。授業と学級経営は切り離すものではなく、**授業を通して学級経営**を行っていく。

**3 育てたい資質・能力の見直し・更新、6年間の育ちの系統性を意識した教育活動の展開**

- ・十小で育てていきたい資質・能力を整理・更新し「**十小の学び方**」にもとづいて、子どもたちが安心して、主体的に学べるような支援を行う。
- ・学校行事や学年全体での取り組み等について「**めざす子どもの姿**」の**共通理解**を図り、具体的な活動場面において育てたい力、指導者の立ち位置、よりよい支援を話し合っ共有していく。
- ・**学年・学級カリキュラムシート**をもとに、（更新しながら）1年間、そして小学校生活6年間を見通して、育てたい資質・能力を考え、子どもの育ちを実現していく。



(1) 子どもの育ちに結びつく授業・単元づくりのあり方や教師の支援の仕方を学ぶ。

① 提案授業

学年を中心に学年部で授業づくりを行い、**生活科・総合的な学習の時間を重点教科と捉えるとともに、国語・社会・算数・理科・自立活動・生活単元を含めた授業を提案**する。授業研究会の持ち方を工夫し、お互いの授業を参観して学び合える形で行う。

事前研究会は、以下の内容で2回行う。

**事前研究会①：子どもの学びの姿をもとに、めざす子どもの姿、つけたい資質・能力について話し合い、授業・単元構想をもつ。**

**事前研究会②：予想される子どもの思考と指導事項について考え、指導案を検討する。**

事後研究会は全体で行う。提案授業を実践・参観し、各自が学んだことを共有する。

② マイ授業

提案授業者以外が行う学年部での授業研究会。事前・事後研究会は、学年部単位で行う。

事後研究会で話題になったことを「校内研だより」にまとめ、全体で共有化していく。

③ 日常授業実践

「十小の学び方」を意識し、日々の授業の実践にあたる。

教材研究や教材の開発等、個人内にとどまらず、学年間や学年部間、教科担任間で連携しながら授業づくりを行う。

提案授業やマイ授業で発行された「校内研だより」を読み、自分の授業実践に活用していく。

(2) 研究の日常化（育ちの追究の日常化）を図るために、学校行事、学年での活動、総合的な学習の時間、普段の学級・学年経営等における、よりよい教師の支援を探る。

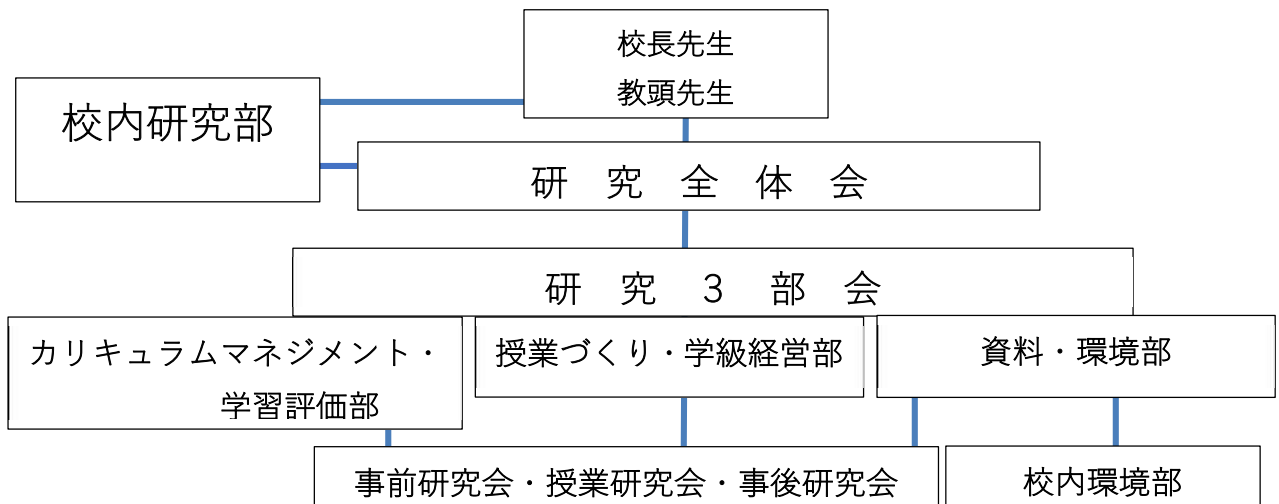
① 学校行事、学年での活動、総合的な学習の時間（生活科）などにおける育ちの追究

学年担任団で子どもの学びの姿を把握し、**育てたい資質・能力を考え「めざす子どもの姿」をイメージ**していく。研究主題・3つの柱をもとに、「活動内容」、「教師の支援（特に意識付けを重視）」を検討しながら実践にあたる。

② 子どもの育ちや教師の支援のあり方についての共有化

授業研究会だけでなく、**日常的に子どもの学びの姿を記録**していき、子どもの変容をとらえられるようにする。また、**語りタイムを活用**し、子どもの姿を共有化したり、よりよい支援を考えたりする。**教育支援とも連携**を図り、子ども理解に努める。

学校・学年の活動において育てたい資質・能力、「めざす子どもの姿」、教師の支援（意識）のあり方について、3つの柱にもとづいて研究全体会で共有する。各活動の実践後は、子どもの学びの姿をふり返り、子どもの育ちを言語化して蓄積する。次のよりよい支援を考えていくようにする。



間年 画計・組織

年度当初	◆研究の方向性の確認と見直し・研究計画・研究の組織づくり
4月	◆研究全体会（研究の概要、組織、計画等の提案）・研究3部会 研究3部会は定期的に行っていく。
5月	～各学年部の提案授業の日程調整及び講師招聘～
6月	～子どもの安全と安心に留意した 授業づくり 教育活動の展開～ ～提案授業、マイ授業へむけた 単元・授業づくり スタート～
7月	◇提案授業 A・B ☆校内研修会：子どもの姿をとらえた授業づくり ◆研究全体会 (一学期のふり返り 資質・能力の見直しカリキュラムシートの更新 今後の見直し)
8月	☆校内研修会：子どもが安心して学べる授業づくり・学級経営 子ども理解研修を計画予定
9月	～マイ授業へ向けた 単元授業づくり 2学期～
10月	
11月	◇提案授業 C・D ～子どもの姿を整理・分析～
12月	◆研究全体会 (2学期のふり返り、資質能力の見直し カリキュラムシートの更新 今年度の実践のまとめ提案)
1月	～学年・学校全体によるふり返り 今年度の研究実践のまとめ～ ◆研究全体会（資質・能力について見直し・再検討） ☆校内研修会：子どもの姿をとらえ、実践活用を見据えた授業づくり
2月	◆研究全体会（研究の成果と課題、次年度の方向性）
3月	～次年度の研究の方向性 組織づくり～

\*研究3部会は、定期的に設定し、協議する。  
 \*提案授業研究会は研究全体会に位置づけ、分散型の全員参加とする。  
 \*上記以外の会議や研修会等については、研究部、研究3部会で必要と認められた場合に実施する。

研究の計画（主なもの）

の見直し

実践研究

まとめ